
二人の間で世界は回るか

森上 木一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人の間で世界は回るか

【Zコード】

Z8555B

【作者名】

森上 木一

【あらすじ】

ある学生二人の差し障りの無いやりとり。

「今、世界は回つてゐる」

彼女はふとそんなことを呟くと、僕の顔を見た。僕は馬鹿で野暮だ。彼女が何を言ったのか、その意味を図りかねる。

「どうして？」

一瞬ボケッとしていた。彼女の刺すような視線に少し動搖し、質問の言葉が濁る。微かに自分の心音が聞こえる気がする。少し顔が赤らむ。

因みに語弊が生じているかもしないので、弁解すると、僕らは決していわゆる恋人関係でなく、俗に言つ付つてはいない。そういう感情も無い、はずだ。

彼女こと原美里はただのクラスメート。今僕らは一人で図書館にいる。しつこい様だがこれも「デートではなく、もつと単純な「鉢合わせ」である。

「どうして…じゃあ松宮は今世界は回つて無いと思う？」質問を返された。

僕は原美里のことはよく知らない。初めて話したに等しい。だから僕がいくら野暮でも、彼女の言つことが理解出来ないのは、僕のせいでは無いのかもしない。

彼女は変わつていて、顔はそこそこ良いのに。こんな真面目な顔で睨まれていると、勘違いしたくなってしまう。

「まあ。今世界は回つてると思うよ」始めの彼女の意見を呑む。僕の中では何も意味がない。

「ふーん」彼女はさも当たり前だと言わんばかりに頷く。そして再び話しが出す。

「世界はね、常に回つてるとと思う。それも環状じゃなくて、DNAのみたいに、繋がりがどんどん新しく伸びていく様な。そして、その中では全てに意味が有つて、因果が有る。地球が出来たのも、

生命が誕生したのも。芽吹くのも、伐採されるのも。何だつてそう

「ところで…」彼女が一息吐くのを確認し、切り返す。ところで、だからつまり何を言いたいの、と聞きたが止めおく。「じゃあどんなに小さな事でも？」

「そう、全てが世界を回しているの。松宮がその本を選んだこと、も、今私と話をしていることも」彼女は僕の前にある本を一瞬、見やる。

「へえー。じゃあ…え? 今、原と俺が話してる事?」

「そう。何かしら次の事象に繋がるよ」彼女が言わんとしていることがまだわからない。

「何かそう言わるとしつべつ来ないな」別に何も起きないだろ

う。

まさか遠回して僕に気があることをほのめかしているのかと思つ。他愛ないと振り切る。

「じゃあ互いに目的も違う訳だし」彼女が立ち上がる。少し心惜しい。「じゃあね」と言つと、そそくさと行つてしまつた。

僕は馬鹿だ。彼女が図書館に来た目的を聞いていなかつた。結局訳がわからぬまま、野暮な僕は彼女の存在を図りかねる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8555b/>

二人の間で世界は回るか

2010年10月9日06時10分発行